

子どもたちの「いじめ自死」を繰り返させないために

全面的な調査で真相の究明を！

—— 名古屋市立中学生の「転落死」について第一次声明 ——

2013年7月23日 愛知県教職員労働組合協議会
名古屋市教職員労働組合

2013年7月10日、名古屋市立中学校に通う2年生の生徒が自らの命を絶ちました。私たちはこの知らせを痛恨の思いで聞きました。

私たち愛知県教職員労働組合協議会（愛教労）及び名古屋市教職員労働組合（名教労）は、1994年の結成以来「教え子を再び戦場に送るな」の不滅のスローガンとともに「子どもと教職員の人権を守り発展させよう」を合言葉に活動を進めてきました。

教育現場に責任を負う立場にある者として、限られた情報の中でも、今私たちが考えていることを「第一次声明」として発表します。

- 1, 今回のできごとは、子どもの最大の人権である命が奪われたということであり、私たち教職員組合が真っ先に考えなければならない問題だととらえています。
- 2, 新聞報道によると、名古屋市教育委員会は、自ら命を絶った本人のノートにいじめと自殺をほのめかす記述があった等の理由で「いじめがあったと疑わざるをえない」として徹底的に調査をするとして行動を起こしました。

その時に、記者会見に同席した河村名古屋市長の口からは「『うその報告は絶対にするな』と強く言っておいた」というような強権的な発言も飛び出しています。私たちはこういった上から権力をかざしてのやり方には反対します。

7月18日の名古屋市教育委員会会議において、この問題を調査・検討するために副市長の下で第三者委員会を設置することが決定されました。私たちは、「大津事件」で採用されたように、行政機構の人物を入れず、遺族の要望も取り入れた誰が見ても客観的な第三者委員会を設置することを強く求めます。

また、7月16日には、アンケート結果の中間報告も出されました。一般行政とは独立した教育委員会としての良識ある調査・対応と、「いじめ・自死事件」についての深い解明を求めます。

- 3, 「担任があおった」とか「死ねという言葉が学級で飛び交っていた」等の報道もありました。しかし、担任があおったかどうかという以前に、この自

死に至った子どもの最後の思いを誠実に受けとめるならば、学校・学年および校長そして担任の責任は重いと言わざるをえません。それは、私たち教職員および学校は、保護者から子どもたちの教育責任の一部を信託され、安心・安全な環境のもとで子どもの学習権を保障する責任を負っているからです。

この間の名古屋市教育委員会の発表をみると、学校現場で日常的な子どもたちの「死ね」「自殺してみろ」等の暴言に対しての適切な対応が欠けていたのではないかと推察されます。私たちは、当該校で、この問題についてすべての教職員の自由な意見交換が保障され、学校や子どもの指導のあり方の真剣な議論が始まることを期待しています。

- 4, 今回のできごとで当該校の生徒・教職員は大きな心の負担を受けていると考えられます。そのため心のケアに関して、スクールカウンセラーや心の相談員の一層の増員等、できうるかぎりの施策を実施する必要があります。

私たち愛教労は、結成間もない20年前に西尾市立東部中学校の大河内清輝さんがいじめを理由に自らの命を絶った時も、その自死問題を組合の問題として学校・西尾市に調査に入り、市民とともにシンポジウムを開き、いじめ自死をなくすための提言を出しました。そして、愛知県各地でいじめを考える映画上映の取り組みもしてきました。

残念ながらその教訓が生かされず、このたびのできごとが起きてしまいました。同じ愛知県で起きた過去のできごとや、昨年来の大津でのいじめ問題の教訓も生かされなかったことは痛恨の極みです。

今、私たちにできることは、徹底的に今回のできごとの真相究明を行うことです。そして、明らかになった事実は包み隠さず公開することです。そして真相解明の先頭に学校・教職員が立たなくてはいけないことは自明のことです。それをもとに、あらゆる立場の人たちが率直に意見を交換し、未来ある青少年が健やかに育つことができるよう取り組みを始めることです。

私たちは、この立場で7月18日に名古屋市教育委員会と当該の学校に対して「転落死に関する申し入れ書」を提出しました。また愛教労・名教労としても独自の調査活動を始めています。

私たち愛教労・名教労は、8月に名古屋で開催される「みんなで21世紀の未来をひらく教育のつどい」に向けて、6月から各地でプレ教育集会を行ってきました。この運動の底に流れる願いは「未来の主権者にふさわしい子どもたちの健やかな成長」と「戦争に反対し、命を大切にする教育の実現」です。この「教育のつどい」でも、今回の「いじめ自死」事件について積極的に問題提起をしていく決意です。そして、二度といじめ自死という悲劇を繰り返させないためにその先頭に立つことをここに表明します。